

企業ニュース 日清製粉グループ本社

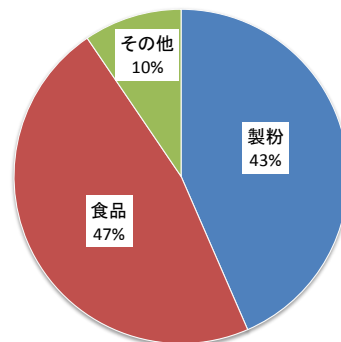
(東証1部 : 2002) <https://www.nissshin.com>

作成者: 兵藤三郎

国内大手製粉メーカー

◇18. 3期売上高構成比

1900年、館林製粉として創業、小麦粉の製造販売を行う。1908年、社名を日清製粉に改めた。その後も製粉工場の新設、同業等の買収・合併などで規模を拡大してきた。戦後は工場設備の充実合理化を進める一方、事業の多角化（加工食品、ペットフード、医薬など）にも取り組んできた。2001年、各事業を分社化し持株会社へ移行、現在の社名となった。製粉と食品が主要事業。製粉は国内小麦粉市場の約4割を占めるトップ企業だが、国内は成熟しかつ関税などで保護された成長を期待しにくい市場のため、海外で製粉会社・工場を買収し成長を目指す。食品はパスタや冷凍食品など加工食品と、コンビニ向けの中食・惣菜事業などがけん引役となっている。輸入小麦の政府売り渡し価格改定（10月1日）に伴い、12月20日出荷分より業務用小麦粉の仕切り価格改定を行う。



(出所) 日清製粉グループ本社
資料よりCAM作成

海外製粉、中食・惣菜事業が業績のけん引役

19.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が1,413億円、前年同期比8%増、営業利益が73億円、同17%増。小麦粉価格改定やエンジニアリング事業における大型工事進捗などにより増収となった。利益面では、増収効果に加えコストダウンなどの収益向上施策により増益となった。

19.3期の会社計画は、売上高が5,650億円、前期比5%増、営業利益が275億円、同1%増。利益項目では年度計画に対する第1四半期業績は好進捗だが、第2四半期以降は広告宣伝費や研究費、人件費等の将来に向けた戦略コストを積極的に投下する計画を持つため、当期予想は据え置いた。当社の経営計画の基本方針では連結ベースの配当性向を40%以上としており、今期は6期連続（実質）増配（3円増額）を予定している。海外製粉事業および国内加工食品・惣菜事業の拡大は継続しており通期計画の達成は可能であろう。惣菜事業ではコンビニ向けだけでなく、スーパー向けも拡大している模様。子会社、日清ファルマで展開する、医薬品原料となる高純度EPA事業も今後成長が期待できよう。

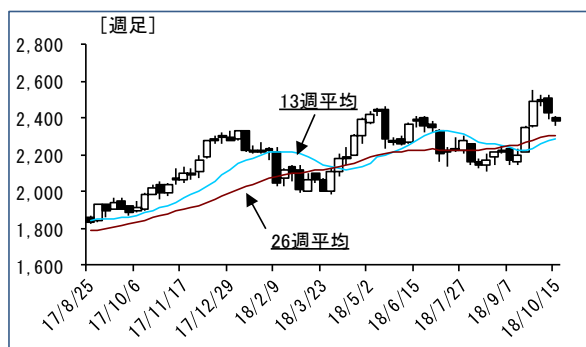
[株価動向・投資判断]

海外製粉、中食・惣菜をけん引役に事業拡大の期待が持てる銘柄。医薬品原料事業などにも成長期待があろう。

<2002 日清粉G 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益	1株配当
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円	円
17.3	532,040	(▲4)	25,511	(7)	30,329	(8)	19,466	(11)	64.5	26.00
18.3	540,094	(2)	27,200	(7)	31,800	(5)	21,339	(10)	71.5	29.00
19.3 予	565,000	(5)	27,500	(1)	32,000	(1)	22,000	(3)	74.1	32.00



[主要株価指標]		(売買単位: 100株)
株価(2018/10/15)		2,383 円
年初来高値(高値日)		2,550 円(18/9/28)
同 安値(安値日)		1,985 円(18/3/26)
予想 P E R (19.3 予)		32.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)		1,372.9 円
P B R		1.74 倍
予想配当利回り		1.34 %
(1株当たり配当金年32.00円)		
R O E (18.3)		5.4 %
発行済み株式数		30,436 万株